情報の誤評価・誤解釈

この問題は、被面接者から曖昧な情報を受けた際に明確にするための質問をしなかった結果である。

通訳利用の難しさ

言語によって言葉の意味のニュアンスは異なることがあるため、面接員は情報が正確かどうか、通訳者と再確認しなければならない。

重要点

乳児死亡調査員は、以下のことを認識しておくべきである:

1. 乳児死亡調査は、調査の開始時から、殺人として取り扱わうべきではない種類の案件である。
2. 面接は死亡原因の正確な判定につながる情報を得る、最良の機会である。
3. 正確な情報収集のためには、文化の違いを認識し、適応を図るべきである。
4. 面接は、計画力、集中力、実行力を必要とする。
5. 面接は、様々な機関の死亡調査員によって行われるものである。
6. 尋問は宣誓した法執行機関の職員によって行われるものである。

要約

ディスカッションを行うための質問集

1. 死亡現場と犯罪現場の違いを説明せよ。
2. 面接前にロールプレイを行うことが重要な理由について討議せよ。
3. 面接前に知っておくべき主要項目を述べよ。
4. 子どもへの面接に伴う潜在的な難しさとそれを低減するための方策について討議せよ。
5. 調査対象者との間に信頼関係を築く様々な方法について討議せよ。
6. 現場での面接において、死別がどのように影響を与えるかを討議せよ。
7. 人によって死への対処が違うのはなぜか？
8. 悲嘆にくれる両親に対して、面接が必要であると理解してもらうために、最も重要な事柄は何か？
9. 子どもと死別した両親と共同作業を行うための、6つのスキルについて説明せよ。
10. あなたの異文化への姿勢というものは、どのようにあなたの面接能力に影響するであろうか？

理解度確認のための例題

1. 面接の際に最も重要な要件は？
   - A. 分離面接(parting)
   - B. 計画立案(planning)
   - C 誘導（Polarizing）
   - D. 作出（Parturient）

2. 以下のうち、面接の段階に含まれないものはどれか？
   - A. 現場から離れた経緯につき聞く段階（Escape）
   - B. 導入の段階（Entry）
   - C. 目撃者の考えなどを聞く発展的段階（Evolution）
   - D. 出来事につき聞く段階（Event）

3. ラポール（信頼関係）を築くのが重要なのは
   - A. できるだけ早く面接を終わらせるためである
   - B. 面接調査者と情報提供者の間にオープンに語れる状況を築くためである
   - C. 目撃者の識見を確認するためである
   - D. 虚偽の証言に関するダイナミクスを評価するためである

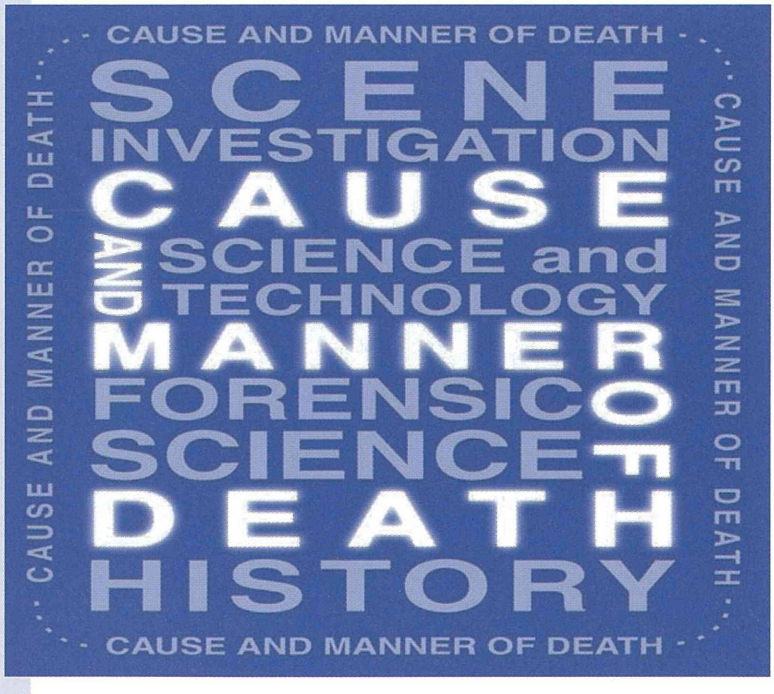
4. 以下のうち、面接場所の選択としてふさわしくないのはどれか？
   - A. 他の家族がいるリビングルーム
   - B. パトカーなどの公用車
   - C. 裏庭にあるポーチの静かな場所
   - D. 他者が同室していない食卓

5. 以下は、一つをのぞいて快適さを感じているかを図るサインであるが、それは:
   - A. 声の調子
   - B. そわそわしている
   - C. 鼻歌がでる
   - D. 呼吸の調子

6. 面接の前段階で最優先に考えるべきものではないのはどれか？
   - A. 面接にふさわしい環境を選択する
   - B. 面接する人物を整理し、優先順位をつける
   - C. 面接に専念する時間を決定する
   - D. 面接のパラメーターを決める

chapter 4

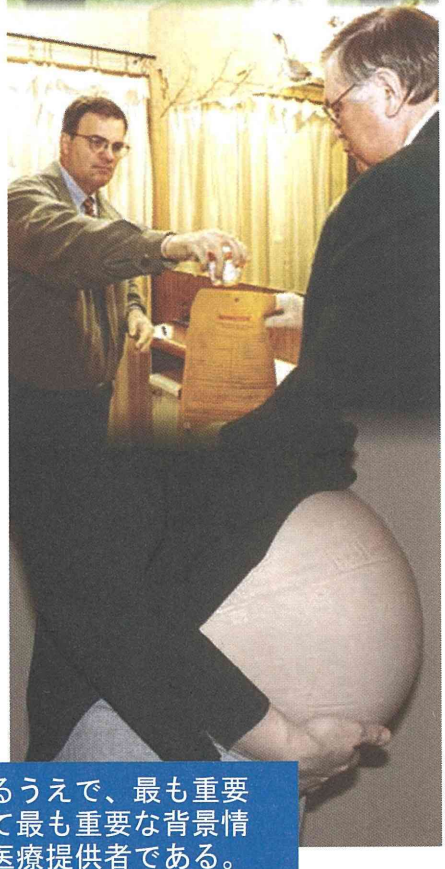
第四章



Theresa Covington, M.P.H.
Robert Hinnen, M.S.W.
Deborah Robinson
Bruce Walz, Ph.D.
Bobbi Jo O'Neal, R.N., B.S.N.
Roberta Geiselhart, R.N.
Kay Tomashek, M.D., M.P.H.
Sarah Blanding, M.P.H., R.D.
Donald Burbrink, B.S.
Thomas Andrew, M.D.
Tracey Corey, M.D.

面接所見と調査データの収集

家族-養育者-医療従事者



ユニット9: 初動時にどのように目撃者やケースの情報を収集するか
ユニット10: 最近の乳児の活動・行動の状況
ユニット11: 医療情報および妊娠歴
ユニット12: 授乳・食事に関する情報

情報収集は、死亡調査を意義のあるものにするうえで、最も重要な要素の一つである。通常、死亡乳児について最も重要な背景情報を持っているのは、家族、養育者、そして医療提供者である。SUIDI報告様式は、この情報収集を行ううえで有用な調査ツールであり、それぞれのセクションでキーとなる情報を集めるべく要点が提示されている。現場でどのような書式を使用するかに関わらず、本章で述べる事項というものはは、死亡原因や死亡態様を決定していくうえで極めて重要なものである。

概要

本章では、現場の両親、養育者、およびその他の一般市民に、現場で面接を行う技術と、データ収集技術について述べる。これには調査員と、乳児を最後にその場に置いたとされる人物（プレイサー）、乳児が生存していたのを最後に確認した人物(LKA)、そして死亡しているか無反応状態の乳児を発見した人物(ファインダー)との間の全てのやり取りが含まれる。乳児の直近の行動および乳児に関するその他の事項には特別な注意を向ける必要がある。本章ではさらに、医療、食事および妊娠期に関する、データの収集方法ならびにその記入書式について詳述している。

補助資料

SUIDI-RF（予期せぬ乳児突然死に対する報告フォーム）や、各自治体で承認されている同様のフォームのほかに、下記の資料が参考になる：

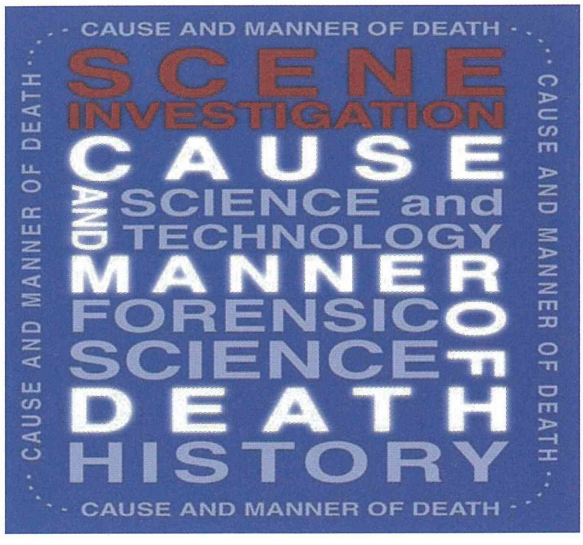
1. Schafer JR, Navarro J. *Advanced Interviewing Techniques: Proven Strategies for Law Enforcement, Military and Security Personnel.* Springfield, Ill: Charles C. Thomas; 2004.
2. Rabon, D. *Interviewing and Interrogation.* Durham, NC: Carolina Academic Press; 1992.
3. Dix J. *Handbook for Death Scene Investigators.* Boca Raton, FL: CRC Press LLC; 1999.

本章のねらい

本章の終わりまでに、読者は、以下のような能力を身につけることができる:

1. 面接時の一般的な質問項目を理解する。
2. ファインダー、プレイサー、およびLKAへの質問項目を理解する
3. 両親に関する情報を記載することができるようになる。
4. その他の養育者に関する情報を記載することができるようになる。
5. 医療記録を記載することができるようになる。
6. 食事および妊娠記録を記載することができるようになる

それぞれの作業は、専門職として繊細な態度で、その地方の法律や条令、習慣に準拠して、行わなければならない。



unit 9

初動時にどのように目撃者やケースの情報を収集するか

はじめに

目撃者に対し面接を行うために必要な能力は、乳児の死亡現場調査員であれば誰しも習得を志さねばならないものである。このような面接はどの調査員にとっても難しいものであるが、面接者は家族が感じている気持ちや悲しみに配慮した中立的な質問を行えるよう備えなければならない。現場で最初に被面接者にで出会う瞬間というものは、うまく面接を行っていくための第一歩である。面接を首尾よく始めることができ、第一印象の悪さから面接が立ち行かなくなることも避けられるような、極めて一般的な導入的質問というものがある。面接の最初の時点で作られた雰囲気は、被面接者が進んで協力してくれるか否かに直接影響する。SUIDI報告書や調査ノート（補足情報用）など標準的な情報収集資料を用いることは、面接における望ましいデータ収集法である。本ユニットでは、様々な場所でなされることとなる最初の質問を、SUIDI報告書に基づいて述べる。

インタビュー前に行うべきこと—現場の安全確認

優先すべき言語

現場の警備および安全は重要な問題で、現場の証拠物品がいじられないように現場保存するだけでなく、調査中全員が無事であることが保証されなければならない。死亡調査員および他のスタッフの行動内容と理由を、住民に理解してもらうよう努力を尽くすことが必要である。しかし、言語の問題は会話の要求を著しく困難にする場合があり、行動や声色の誤解釈は、既に感情的に高ぶった現場を、混乱に陥れることが知られている。

言語上の問題が存在することがわかっている管轄区では、地域内でよく話されている様々な言語で、主要な用語やフレーズを記したポケットカードを製作している調査事務所もある。このカードがあれば、現場でその人物に優先的に使用する言語で示されたカードを見つけるまで見てもらうことができ、死亡調査員は家庭内で話されている言語を素早く確認することができ、支援を要請することができる。機関提供の通訳が到着したら、調査を開始することができる。

通訳

死亡調査員がその優先言語を話せない場合は、死亡調査員は自身の話せる言語と、その優先言語とを話す誰かを、探す必要がある。その場や身近にいるほかの成人が補助できることが多い。他の家族や同居人の中で、公的機関の職員が到着するまで通訳として補助や支援ができる人物を、挙げておくことが必要かもしれない。この作業は死亡調査員、警察官のどちらが行っても良く、同居している家族と簡単な会話を始めて、補助できる人物がいるかどうかを確かめる。年少の子どもに通訳をさせる場合は、細心の注意が必要である。他の言語には訳しにくい言葉というものがあるからである。

この状況は理想的ではないかもしれないが、制御された状態と混沌との違いは数秒で生じる場合もあり、正式な通訳が探し出され、現場に派遣されるまで待つというのは現実的ではないかもしれない。ボランティアとしてのそのような即席の通訳者との作業においては、死亡調査員の目的は、現場で何を行われようしているかに関する基本的な会話であり、そしてできればその家庭で指導的立場にいる人物を割り出すことである。

安全性

警察は全ての武器を確認して排除し、アルコールや薬物の影響下にある人物を退出させ、極度に興奮している人物を見つけて警護しなければならない。現場が安全でなくなったり、安全性が失われる可能性が生じれば、警察は追加的支援を要請しなければならない。

死亡調査員は、不要な人物、見物人、帰宅する家族の現場への立ち入りを、最小限にしなければならない。現場には、両親・養育者、他の子ども、他の家族、隣人など多くの人物がいる可能性がある。制御された状態を保つために、死亡調査員はそれらの人物を選別し、何人かには残り何人かには退出してもらうように、要請しなければならない。死亡調査員は、調査の最初の数分間に果たす自分の役割が、調査そのものよりも感情の鎮静剤になるかもしれないことを、知っておくべきである。

補助的人材の要否確認と要求

乳児の死亡現場に派遣された際、他の公的機関の職員が既に現場にいても、死亡調査員は驚いてはならない。これには、救急医療サービス、警察、および監察医・検視官や他の調査員が含まれる。これらの人物と信頼関係を築き、それぞれの役割や責任を確立することは非常に重要である。彼らは現場の目撃者の、人物像や死亡者との関係、死亡を取り巻く状況への関与や知識などの、重要な情報を掴んでいつかもしれないのである。

現場で紹介しあうことで、他の公的機関の職員と正式な接触を行うことができる。機関職員と接触を持っておくと、死亡調査員は、現状に関する情報を収集することができ、どの人物に面接すべきかを判断することができる。現場に到着次第、死亡調査員は最初に目に入った職員に近づき、その職員が調査の何を担当しているのかを尋ねる。死亡調査員は、次に現場担当の機関職員を探し出し、事件の概要を掴む。

調査員は現場の機関職員全員と協力して作業を行い、現場に補助となる人材の派遣が必要かどうかを判断する。派遣を考慮すべき人材には、下記のような人材が考えられる:

- 牧師または適切な聖職者
- 法医学専門家(法医/病理医)
- 児童相談所/ソーシャルサービス
- 適切な家族メンバー
- デイケアなどの施設の場合は、監督者や管理部門に連絡する
- 精神医学専門家（被害者擁護、SIDSサポートセンターなど）

基本的な現場管理

現場での感情的問題をコントロールし、現場をコントロールする　調査員は現場で幅広い感情に遭遇することがあるだろう。調査員は、その人物がその出来事を通じて、怒り、拒否、ショック、そして自己満足など、感情をいろいろな方法で表現する必要があることを認識しなければならない。現場では他者の感情だけでなく、死亡調査員自身の乳児の死亡に呼応した感情にも対処する必要がある（Mitchell & Resnik, 1981)。

死亡調査員が現場を管理し、調査を完遂するための情報を収集しようとするなら、自身の制御を保ち、油断なく目の前の調査作業に、集中していなければならない。全ての現場に通用する決まりはなく、その場所そのものが手順の指示を与えていく。現場は乳児の主たる住居である場合も、ベビーシッターの家、デイケアセンター、病院の救急室、または死体安置所の場合さえある。一つの場所で適切なことが、別の場所でもうまく行くとは限らない。死亡調査員は常に柔軟に、適宜アプローチ方法や現場管理スタイルを調整していかなければならない。

現場は混沌としている場合もあるが、死亡調査員の役割はこの混沌を制御しながら、同時に現場の保全や調査を行うことである。対象者の感情の状態は、現場のタイプによって異なる可能性があるが、一つ普遍のものがある: 人が代わればストレスへの対処法も異なる、ということだ。乳児の死亡現場調査員はこの考え方を理解し、誰かが真の悲しみにうまく対処できないとしても、不適切な反応をしないことが非常に大切である。死別を経験した人でも、それぞれの状況ごとに違う行動を取るのである。死亡調査員も現場管理においては、同じ基本的アプローチを取り、系統的で抑制の効いた、秩序正しい態度を保ち、同時に柔軟にもなれることを、理解しなければならない。

誰を残して誰を退出させるか

目撃者 vs. 見物人

現場周辺にいる人物は、全員目撃者の可能性がある。死亡調査員にとって、調査に何ら利益のない人たちから、目撃者をより分けることは難題である。より分け作業は、乳児との関係、死亡やその事件の状況についての知識を含む連絡先情報を、適宜、下記の全ての人から収集していくことから始まる。

- 現場にいる人
- 調査中に現場に到着した人
- 過去24時間以内に乳児と接触のあった人

この導入会話と情報収集作業によって、とどまってもらう質問対象者と、しばらく退室するように求める対象者が決まる。この選別は全て、現場管理の一貫である。見物人に加え、死亡調査員は不要な専門家や家族にもその場を離れるように依頼しなければならない場合がある。調査の目撃者リストに含まれることが最も多いのは、下記の人々である:

- 過去24時間以内に乳児と接触した人物
- 乳児を寝かしつけた人物(プレイサー)
- 乳児を発見した人物(ファインダー)
- 乳児が最後に生存しているところを見た人物(LKA: Last Known Alive).
- 父母またはその他の主たる養育者

調査員は、現場に境界線を設け、どこから立ち入らせないかを決めなければならない場合がある。例えば近隣住民は現場の境界線から立ち退きを要求されることがある。現場に到着した祖父母は、乳児と24時間以内の接触はないとしても感情を和らげ、現場を落ち着かせるために有益な場合があり、残るように依頼する場合がある。死亡調査員は、人々やペットの世話、その他の作業をする特定の人にも、残留を依頼する場合がある。

調査にとって必要と確認された人物は、その場に留まるよう要請される。彼らを現場にとどめて置けない場合は、せめて後日の照会のための有効な連絡先を聞いているかを、確認する。残留を要請する際は、死亡調査員は彼らが居残るよう要請されている理由を常に伝えるようにすることで、糾弾するような態度にならないよう努力する。この人々には、彼らの提供した情報は死亡調査員やその他の職員が、乳児の死の理由を理解するうえ重要であることを、確信できるように伝える。必要であれば、彼らには居心地の良い待機場所を提供する。

多くの場合、乳児は現場から去っている（病院に搬送されているなど)。両親や養育者は、乳児に付き添うことを要求する場合もあるだろう。家族の意向は最大限尊重すべきだが、死亡調査員はこの要求と、状況や法的必要性、調査機関のプロトコールを秤にかけなければならない。家族が乳児に付き添う場合は、護衛をつけ、受け入れ機関に彼らが向かっていることを知らせておくようにして、受け入れ態勢と管理が整うようにする。

初期段階で、生産的面接ができる可能性につき評価する

死亡調査員にとって、現場の人々が非常に高ぶっていて、正式な面接を行なうような状況にはないと判断せざるを得ない場合もある。しかし、死亡調査員は彼らの行動と、出されたコメントを全て記録しておくべきである。死亡した乳児の養育者は、非常に強い罪悪感を持ち続ける場合が多く、起こった出来事に責任を感じている場合もある。死亡調査員は警戒心を持ち、興奮した発言を記録すべきだが、その発言がなされた背景についても、記録するようにしなければならない。

死亡調査員が初期段階で、特定の人物に面接を行っていない場合には、後日の面接の日程を組むために、彼らの連絡先情報を記録してあることを確認すべきである。しかし死亡調査員は、取り乱した人物が面接の予定時間を覚えていることを期待してはならない。

目撃者について

成人の目撃者

前述のとおり、乳児が死亡している、または無反応であることが発見された時、誰がそこにいたか、そして、その時点以降誰が到着したかを確認することは非常に重要である。死亡調査員は、警察官に、現場到着時に誰がそこにいたか、その後誰が到着したかを尋ねる。その職員は、一般市民の目撃者が誰かを知っていることもあり、その中にはプレイサー、LKAそしてファインダーも、その職員による彼らの評価も含まれていることもある。現場に最初に到着した警察官は、その場にいる人々の記録をつけても良い。さらに、死亡調査員は“冷静な”家族を確認し、自己紹介をしても良い。死亡調査員はその人物にその場にいる全員を紹介するよう依頼し、乳児を発見した人物を含む近親者に紹介してもらっても良い。

接触の家族側窓口となる人物またはスポークスマン（父、母、養育者など）が確認できたら、死亡調査員と警察官は、協力して名前と連絡先を記録する。法医学調査によっては完了までに数年を要するものもあるため、このように、両機関が同じ連絡先の人物を把握しておく。調査を担当する警察官は交代する可能性があり、事件を割り当てられた人物は誰が家族側窓口なのか、どのように接触すれば良いかを知る必要がある。

家庭内の成人全員の、乳児との関係がわかれば、誰がどんな時間に乳児と接触した可能性があるかを知り、その接触が重要であったかどうかを判断することにも役立つ。母親にとり“重要な他者”は、乳児には無関係かもしれないが、母親と同居しており、乳児が無反応になっていることを発見する可能性はある。警察と協力し、家族側の窓口となる人物とともに、死亡調査員は、死亡現場にいる成人全員が乳児とどのような関係にあるかを判断しなければならない。

死亡調査員は、家庭内に居住する全成人の、氏名、生年月日、連絡先、性別を含む詳細な情報を収集しなければならない。この情報は、法医/病理医が死因や死亡態様を判断する上で、存在した可能性のあるリスク要因を判断するために役立つ。また、これによって、死亡調査員や警察が振り返ってさらに質問したり、乳児と接触した可能性のある人物を評価することもできる。

成人の情報を収集する際は、氏名の変更は過去の犯罪歴やその他の重要な問題に関連している場合がある。この中には、過去の家庭内暴力的状況による氏名変更や、場所を異動し、別の管轄区での訴追を逃れるための氏名変更も含まれることがある。警察官と協力し、家族側窓口の人物とともに、死亡調査員は死亡現場にいるどの居住者が偽名、旧姓･名、または別名を持っているかを見極める。

目撃者

家庭内の他の子どもが、乳児とどのような関係にあったかを見極めることは、だれが乳児と接触したかを確定するうえで役立つ。警察と協力し、主たる養育者とともに死亡調査員は死亡現場にいた子ども全員の乳児との関係を確認する。死亡調査員、法医/病理医、他の機関職員が後日連絡をとれるように、それぞれの子どもの名前、生年月日、連絡先、を記録する。

多くの子どもたちが現場周辺で動き回ることはよくある。前述のとおり、死亡調査員はその場にいるだれが実際にそこに居住しており、だれが訪問者でそこにいる成人に養育されているのかを確認しなければならない。これは様々な理由から重要であるが、最も重要な理由は、彼らの健康と安全を守ることである。

その他の人々

家庭内のその他の成人および子どもも、なんらかの形で乳児の死に関与したり、調査に役立つ情報を持っている場合がある。事件または死亡前24時間以内の訪問者（家族でもその他でも）や死後の訪問者を確認することも重要である。

デイケアは事件または死亡時に人が最も多くいる場所かもしれず、その全員が死因や死亡態様の判断要素になりうる。重篤な病気を持っている子どもや、監督下になかった子どもが、成人や学生のアシスタント同様重要な要素になる場合がある。死亡調査員は、事件または死亡時に何人が何のために、その場にいたかを把握しなければならない。

他の子どもが死亡前に乳児とベッドまたはマットレスを共有していたことが判明した場合は、それぞれの子どもについて以下の事項を記録しておく:

- 年齢
- 生年月日
- サイズ
- 障害
- 行動障害
- 通学中の学校

警察とともに、死亡調査員は事件または死亡当時現場にいた人物全員の名簿を入手または作成しなければならない。成人・子どもがともに含まれたその名簿は、非常に有用な調査資料になりうる。そのような名簿が入手できれば、死亡調査員は様々な用件のために、後日再訪したり身元確認したりすることができる。

潜在的な問題を確認する

死亡調査員は、乳児死亡現場で起こる可能性のある様々な問題を管理しなければならない。このような問題には、感情的反応の問題、現場指揮の問題、患者の管理上の問題、調査上の問題、 そして機関同士の交流上の問題が含まれる。これらの問題の中で、最も管理が難しいものは、情動状態である; これは、現場を歪めてしまう。現場での当初の役割に加え、死亡調査員は、拡大する可能性のある問題に対してはさらに慎重になる必要がある。また、回答者の中に混乱が生じることや誰が現場を指揮するかについて意見の相違があることも予期しておく。犯罪行為が強く疑われる場合は、重要人物の管理や移動に関する措置が必要な場合もある（養育者をばらばらにするなど)。

その場にいる人の情動状態によっては、その高ぶった感情を、死亡調査員が和らげたり制御する必要がある場合もある。悲嘆にくれる両親の反応は過剰に強烈な場合があり、自己陶酔、矛盾、困惑などを示す場合もある。死別した両親には、子どもの死はあまりに圧倒的で、彼らの反応は他人にだけでなく彼ら自身にとっても不可解なことも多い。現場の感情を制御するとは、感情的応急手当てをするという意味である; 死亡調査員がずっと精神健康上のサービスをしなければならないということではない。

要約すると、死亡調査員は、以下のことを予期しておくべきである:

- 様々な感情や行動
- 現場からの乳児を移動させることへの家族の抵抗
- 見物人や家族の流入
- 乳児の複数回の移動および現場の変形
- 対応者の混乱: 救急隊、警察、メディアの取材者
- 現場の無保存

死亡調査員自身の医学的プロトコールや専門知識のレベルによっては、死亡調査員が患者の応急措置をする場合もある。措置を開始するには、家族や見物人からのプレッシャーがある場合もある。適切なプロトコールに準拠することと、家族や見物人の感情や状況に対応することが重要である。例えば、死亡調査員が自身の機関のプロトコールに従って診れば、死亡しているとわかる場合でも、家族が死亡調査員に“なんとかしろ”と圧力をかけてくる場合、緊急になんらかの行動をとるべきである。

面接を構成する（面接の導入段階につき説明した箇所を、再確認のこと）

自己紹介し、自分の役割を明らかにする

目撃者に自分の名前、肩書、所属機関、面接の目的、そしてこの調査の段階終了後の連絡先担当者を告げ、自己紹介する。これが時間のかかる手続きであり、個人的な質問を多くする必要があること、その中には答えにくい質問もある可能性があることを説明する。目撃者が休憩したい場合は、ただそう言ってくれればよく、時間が与えられることを説明する。

面接の基本情報を記録する

目撃者との接触及び面接の日時と情報を記録する。さらに、その接触時に居合わせた可能性のある人物も記録しておく。その事例に関連するすべての記録には事例番号を振って記録することが重要である。

面接を開始する

まず一般的調査データの収集を試みることから面接を開始する。このデータには乳児の情報及び一般的な目撃者の連絡先情報が含まれる。これらは被面接者が簡単に答えられる質問であるため、この手続きは被面接者との間に信頼関係を築くのに役立つ。また、これらの質問によって、被面接者の教育程度、冷静度、および何らかの障害や言語障壁があるかどうかも評価することができる。質問中のその人物の態度によって、今が面接に適した時間か、通訳、カウンセラー、または聖職者による介入が必要かも判断できる。目撃者の外見、履歴情報についての回答、協力姿勢なども観察し、記録する。

一般的調査データ

乳児情報

現場が管理下に置かれ、主たる養育者が判明したら、死亡調査員は乳児の個人情報の記録を始める。フルネーム（ファースト、ミドル、ラストネーム—正しい綴りを尋ねること）、生年月日、月齢、性別、人種、及び社会保障番号はすべて収集し、ケースファイルまたは現場報告書に記載しなければならない。乳児の主たる居住地と事件地の完全な住所を記録しておくことは重要である。この情報は調査に不可欠であると同時に、調査過程を通じて両親、監督者、または主たる養育者との間に信頼関係を築くためにも役立つ。経験豊富な死亡調査員は、両親または養育者との面接時には、面接者は死亡した乳児を名前で呼ぶように勧めている。

目撃者の情報

目撃者のフルネームを記録する：ファースト、ミドル、ラストネーム；正しい綴りを尋ねる。また、使用したことのある別名；生みの母が乳児の出生時には別名を使用している場合もある。この情報は、病院や施設にデータを請求するために重要なものである。警察および子ども保護サービスにも氏名および別名について尋ねる。生年月日および社会保障番号は、他機関での記録閲覧や、多くの機関のデータベースでの検索に有用である。

死亡者との関係

乳児の養育者は、生物学的な親である場合もそうでない場合もある。乳児の養育者情報は、調査に必要な追加記録の発見や、死亡状況の判断に非常に有用になることがある。望ましくは、情報は養育者への質問を通じて収集し、他人からは取得しない。目撃者と死亡者の関係、またはその人物が死亡児についての特定情報を知っている理由、およびどの程度の期間、死亡児と付き合い（ベビーシッター、デイケア担当者としてなど）があったかを記録しておく。

目撃者住所

目撃者の現在および旧住所を記録し、勤務先住所もあれば記録しておく。死亡調査員は、死亡乳児との以前の関わりを警察に示すために、この情報が必要になる場合がある。旧住所は、目撃者が別の場所に住んでいた時に死亡者と接触したかどうかを判断するために役立つのである。これは、死亡者が別の州または地域から引っ越してきた場合はとりわけ重要である。また、郡外または州外の警察または児童相談所からの情報、および住民票収集のためにも、この情報が必要である。

電話番号

エリアコードを含む全ての電話番号を記録しておく。番号は勤務先か、自宅か、携帯電話か、またはポケットベルかを明記しておく。これらの番号に連絡する場合の参考情報も、記録しておく（夜間勤務など）。

調査データ

死亡乳児情報　性 _____ 名 _____ 症例番号 _____

性: ☐男 ☐女　生年月日 ___/___/___ (年 月 日)　月齢 _____ (か月)　住基ネット番号# _____

人種: ☐白人 ☐黒人/アフリカ系 ☐アジア系 ☐インディアン/アラスカ系 ☐ヒスパニック/ラテン系 ☐その他

死亡乳児の現住所:

郵便番号 _____ 住所 _____

インシデントの発生場所:

郵便番号 _____ 住所 _____

接触した目撃者の情報

死亡乳児との関係　☐実母 ☐実父 ☐祖母 ☐祖父

☐継親もしくは里親 ☐医師 ☐戸籍係 ☐その他: _____

性 _____ 名 _____ 住基ネット番号 # _____

自宅住所 _____

職場住所 _____

自宅電話番号 _____ 職場電話番号 _____ 生年月日 ___/___/___ (年 月 日)

図. 4.1: SUIDI報告書の一般的調査項目部分

追加的調査データ（事例ごとに異なる—調査ノートに記録）

接触があった時期：出来事の時系列に疑義が生じたら、誰がいつ乳児と接触したかの時間を特定しながら、記録することが求められる。損傷が生じたことが確認される時間は、実際に損傷が生じた時間に比べて、後になることが多いため、その幅のある時間帯で、誰が“実際に”乳児に接触したかを知ることは、不可欠である。

死者との関係：この記録は、目撃者と乳児の関係や、提供された情報を検証するためのものである。言葉を変えれば、“どうやってこの情報を知ったか”である。たとえば、デイケアの職員は、死亡児が当日、水疱瘡を発症しており、家に送り帰さなければならなかったことから、水ぼうそうに罹患していたという情報を伝えてくるかもしれない。子どもが水疱瘡にかかった場合は親・養育者に知らせるのが普通であるため、他のデイケア業者も、この情報を知っているかもしれない。

家族との関係：上記と同様、被面接者と死亡乳児の家族との関係を記録する。虐待やネグレクトを受けた子どもは、外傷を診断・発見されないよう、ある人物との連続的接触を避けることがある: “インフルエンザに罹患した死亡者の世話をしていたためいつものデイケアに通えなかった”、“死亡者の16歳の姉のボーイフレンドが死亡2日前にベビーシッターをしていた”、などと記載する。

雇用主情報：これは目撃者の医療保険、正確な生年月日、または社会保障番号の追跡には非常に有用な情報である。州によっては、これが唯一の情報収集策である場合もある。

結婚歴：乳児の親または重要な永続的養育者となっている人物の結婚歴を確認することは不可欠である。“自然”死ではない死亡態様が考慮される場合、このようなことが死亡態様を判断するうえで重要になる場合がある。

教育程度：乳児の親または重要な養育者の教育程度は記録すべきである。その人物の教育程度を確認することで、死亡調査員は特定の用語の適切性についてより正しく評価することができる。

目撃者面接の質問事項

目撃者に“あなたはふだんの養育者ですか？”と尋ね、最初に“はい”と答えたか“いいえ”と答えたかを記録する。しかし、続いての質問は後の、叙述に基づく報告書に記載しなければならない詳細情報を聞くことのできる、“何が起こったか話してください”という聴き方を行う。

目撃者インタビュー

1 子どもの養育者ですか？　□はい　□いいえ

2 何が起こったか話してください：＿＿＿＿＿＿＿＿

図. 4.2: SUIDI報告書の目撃者面接部分の最初の質問は、“死亡状況”につき叙述的に回答を求める質問項目データで始まる。（後日、死亡調査員が叙述に基づく報告書を作成する際に使用される）

養育者の交代

乳児の養育者の交代は、乳児の正常なパターンや行動に変化をもたらしたという可能性を含んでおり、死亡の原因になることもある。過去48時間以内に乳児の世話をした全員の名前を調査し、正規の養育者かどうか尋ねる。その時間内に養育者の交代があった場合は、その理由を解明する。過去48時間以内に乳児と接触した養育者には、全員面接をする。

目撃者と家族の関係を記録する（家族以外の場合）

自由回答式質問で、目撃者が乳児、または該当する場合は乳児の家族と、どのような交流や関係があったかに焦点を当てた質問をする。目撃者がどのように家族とかかわることになったかを解明し、その経緯や関係性に、何か変った点があれば記録する。

養育者に最も近しい人物が子どもに害を与えたり傷つけたりすることもある。目撃者がなぜ養育者とかかわっているかを記録する。その人物が死亡者と一緒にいた時間とその理由を書き留める。死亡者の世話をしていた人物が、乳児の身体、食事、また情動状態を細かく観察している可能性が高い。目撃者と乳児の接触日時は正確に記載する。

目撃者には自身と乳児の関係を説明するよう求める。これは、目撃者がどの程度乳児に責任を負っていたかのヒントになることがあり、彼らが取った行動の動機が示される場合もある。目撃者が主たる養育者ではない場合は、彼らが定期的に乳児の世話をしていたのかどうかを確認しておく。

具体的には、下記のような質問を行う：

- ジョニーとはどんな関係ですか？
- あなたはシャノンの主たる養育者ですか？
- ジェイクの世話はどのくらいの頻度で、またどういう状況の時にしていますか？

若い男性は、“ガールフレンドの赤ん坊だから”という場合がある。彼が父親かどうかを尋ねること。祖父母、叔母、叔父の場合は、母方か父方かを明らかにする。友人が、実際には血縁がないのに叔母や叔父だと名乗ることも多い。このような名乗り方は家族構成ではよくあることで、非伝統的な家族では特に多い。　死亡乳児に関する事実情報の記録は、非常に重要である。このデータを検証することで、死亡の根本原因解明に向けて方向性や焦点が絞れることがある。異常な状況があれば、目撃者から情報を得次第質問する。

具体的には、下記のような質問を行う:
- ジェーンの世話をしていて、困ったことはありましたか？
- キムと一緒にいるとき、けがや変った行動に気づきましたか？
- 誰かがジミーについての情報をあなたに告げたことがありましたか？

目撃者が質問に対して詳しく説明することはよくあるため、追加的情報があれば必ず記録するようにする。例えば、“ベビーシッターが私を呼んで、ジェーンの迎えに行かせたんです、ママに連絡が取れないから、と。ベビーシッターはこんなことは初めてじゃないと言っていました”　子どもが何か食べたり、いつもとは違う環境に触れたりした後、普段より騒いでいませんでしたか？と質問し、調査ノートに記録しておく。

直近の乳児との接触、および直近の乳児の活動および行動

虐待損傷による死亡の場合は、乳児の死亡前に乳児に接触した人物が、その損傷に関与しているか、損傷時間帯を特定するために有用な行動変化のヒストリーを提供してくれる可能性がある。感染性疾患による死亡の場合は、人との接触が感染源である場合や、感染児に暴露したことによって感染のリスクや予防の必要性があることを通知しなければならない場合がある。自然死（グルタル酸尿症などの遺伝性疾患を含む）では、乳児と接触のあった者は、一般的な健康状態および死亡前の乳児の活動レベルに関する情報を提供できるかもしれない。

最近の乳児と人との接触

面接を行った全員と同じく、乳児との関係を明らかにする。家族構成の記録は、家庭内での死亡に至った遺伝疾患の事例では重要になることがある。以前に死亡が起こっていたという情報は、死亡調査員や法医/病理医に、その病因を気づかせることとなることもある。また生存しているきょうだいは、遺伝疾患が死因と特定された場合には、さらに医学的評価が必要になるかもしれない。同じ虐待家庭に複数の子どもがいる場合でも、一人の子どもが“ターゲット・チャイルド”として、選ばれていることが多く、家族構成が何らかの役割を果たしている可能性がある。このような家族の力学を理解することは、死亡調査員が様々な家族に提供された情報を分析し、補足情報を収集するうえで助けとなることがある。

目撃者の年齢と、接触日時は4つの一般的シナリオにおいて重要である:
- 小児が罹患しやすい感染症
- ベッドや寝床の共有による事故死
- 外傷
- 高齢または非一次的養育者

接触の時系列および場所を記録することは重要である。感染症や外傷性の死亡の場合は、時間に関する情報が特に重要である。感染性疾患の場合は、最近接触した人物が以下である可能性がある。
- 感染源
- 感染症の潜伏期である

徴候や症状を記録する

乳児が何らかの疾病の徴候を示していなかったかを養育者に尋ね、乳児が死亡前に病気であったか、具合が悪そうに見えたかを判断する。養育者に、咳、発熱、鼻水、下痢、嘔吐、嗜眠など何らかの徴候や、その他の変った行動がなかったかを尋ねる。養育者が、乳児に熱があったと述べた場合は、その体温と、その測定方法を聞く。養育者が、体温計を使わず肌に触れてみただけの場合も多いため、彼らの説明を記録する（大丈夫と感じた、熱かった、燃えるようだった、など）。特定の体温が記録されていたら、それを記録し、その情報を法医/病理医に伝える。異文化の被面接者は疾病の徴候や症状を異なる方法で説明することがあり、情報を明確にするために補助的質問が必要になる場合があることに留意する。

その症状を和らげるために養育者が行ったことを尋ねる—医者に行った、医者を呼んだ、市販薬を与えたなど。何らかの薬剤や薬物が与えられた場合は、それを見せてもらうよう依頼し、必要があれば収集する。どれくらいの用量を与えたか尋ね、それがその乳児に適切だったかどうかを確認し、全ての含有物を把握しているか、養育者はどのようにしてそれらの市販薬を知ったかも確認する。

他に具合が悪くなった人がいれば記録する

剖検によって感染性の死因が示されたときは、この情報が重要となる。このような場合は、病原体への暴露が重要であるため、乳児と接触した人物が感染源である場合もあれば、また乳児からの感染が懸念され、医師の診察や予防的治療を必要とする場合もある。

調査によって、感染体が毒性または非常に感染力が強いとされた場合、または、病原体が報告義務のあるものとして指定されている場合は、可及的速やかにその地方の保健所に通知しなければならない。法医/病理医は、剖検における病理学的所見について保健所と協議することができる。死亡調査員は、最近乳児と直接接触した人物の氏名と連絡先を、保健所に提供できるよう準備しておかなければならない。

最近の損傷や転落をすべて記録する

乳児が事故、転落、または外傷により損傷を負っていた場合は、死亡調査員は養育者にその損傷の発生時刻、損傷を負った場所、状況、およびどのような治療を施したかを説明させる。疑われる損傷は、その場所に行き、転落した高さを測定し、落下面の種類を調査する必要があるかもしれない。自動車事故があった場合は、事故の日時および場所を特定し、 警察調書を入手する。損傷時にその場にいた人物にも面接を行う。

この情報は適切な現場報告書式に記録し、法医/病理医に発言のまま伝えるように、死亡調査員のノートに詳細を記載する。乳児のこのようなヒストリーは、公衆衛生上の記録としても不可欠であり、および追加的な連絡が必要になった場合に適切な機関に連絡するためにも、記録しておくことは不可欠である。家庭内に他にもリスクに曝されている可能性がある幼児がいる場合に、児童相談所に連絡し事例報告をするのは死亡調査員の責任である。

目撃者インタビュー

3	亡くなる24時間前に何かいつもと違ったりしたことがありましたか？	□いいえ　□はい⇨具体的に:
4	亡くなる72時間以内に転落したり損傷を負ったりしましたか？	□いいえ　□はい⇨具体的に:

図. 4.3: 最近の乳児の活動および行動は、SUIDI報告書の目撃者への面接事項記入部位に記載する。

プレイサー・LKA ・ファインダーへの質問

この時点までに死亡調査員はどの人物が、最後に乳児をその場に置き（プレイサー）、最後に乳児が生存していたことを確認し(LKA)、乳児が死亡または無反応であることを発見した（ファインダー）か、を承知していなければならない。プレイサー、ファインダー、およびLKAが同一人物であった場合は、面接は時刻、現場における場所、そしてそれぞれ（寝かされた時ーLKAー発見時）の乳児の姿勢を記録することから開始する。

時刻と場所：乳児が最後に寝かされた、最後に生存が確認された、また発見された日時は、調査現場報告書と死亡調査員のノートに記録する。この情報は調査にとっても、乳児と目撃者の生存中および死亡時の行動の時間経過を特定するためにそのデータを利用することがある法医/病理医にとっても、極めて重要なものである。環境中の物体や場所が乳児にとって危険な場合があるため、配置された場所および発見された場所は、死因にかかわる非常に重要なものになることがある。

目撃者インタビュー

5 子どもが最後に寝かされたのはいつ? ..... ____/____/____ ____:____ _____
年　月　日　時間（24時間表記）　場所（部屋）

6 最後に生存が確認されたのはいつですか？ ____/____/____ ____:____ _____
月　日　時間（24時間表記）　場所（部屋）

7 子どもを見つけたのはいつですか？..... ____/____/____ ____:____ _____
年　月　日　時間（24時間表記）　場所（部屋）

8 どうして子どもが生存していたことが確認されましたか？ _____

9 子どもはどこにいましたか－(P)寝かせた場所、(L)最後に生存を確認した場所、(F)見つけた場所　(P, L, Fに○をつける)

PLF 新生児用かご型ベッド	PLF 添い寝者の横	PLF カーシート	PLF 椅子
PLF 揺りかご	PLF 幼児ベッド	PLF 床	PLF 成人の腕の中
PLF ボックススプリング	PLF マットレス	PLF ベビーサークル	PLF ポータブルの幼児ベッド
PLF ソファー/カウチ	PLF ベビーカー	PLF スイング	PLF ウォーターベッド

PLF その他：具体的に _____

図. 4.4: プレイサー、LKA、ファインダーごとに、具体的な日付、時刻、および場所を聴取する。

身体、首および顔の位置: 死亡調査員は、プレイサー、LKA、およびファインダーに、乳児の配置時、最終生存確認時、および発見時の姿勢を説明し、可能なら再現するよう依頼する(第7章、人形による再現参照）。面接のこの部分で、顔と首の位置を記録しておくことも非常に重要である。

目撃者インタビュー

10 子どもはどの姿勢で最後に寝かせましたか？　☐座位　☐背臥位　☐側臥位　☐腹臥位　☐不明
それは子どものいつもの姿勢でしたか？　☐はい　☐いいえ⇨　いつもの姿勢は？ _____

11 子どもの生存を最後に確認した際の姿勢は？　☐座位　☐背臥位　☐側臥位　☐腹臥位　☐不明
それは子どものいつもの姿勢でしたか？　☐はい　☐いいえ⇨　いつもの姿勢は？ _____

12 子どもを見つけた際の姿勢は？　☐座位　☐背臥位　☐側臥位　☐腹臥位　☐不明
それは子どものいつもの姿勢でしたか？　☐はい　☐いいえ⇨　いつもの姿勢は？ _____

13 最後に寝かせた際の顔の向きは？　☐下向き　☐上向き　☐右向き　☐左向き

14 最後に寝かせた際の首の向きは？　☐頭を後ろにした上向き　☐顎を胸に付けた下向き　☐自然位　☐横向き

15 最後に生存確認した際の顔の向きは？　☐下向き　☐上向き　☐右向き　☐左向き

16 最後に生存確認した際の首の向きは？　☐頭を後ろにした上向き　☐顎を胸に付けた下向き　☐自然位　☐横向き

17 子どもを見つけた際の顔の向きは？　☐下向き　☐上向き　☐右向き　☐左向き

18 子どもを見つけた際の首の向きは？　☐頭を後ろにした上向き　☐顎を胸に付けた下向き　☐自然位　☐横向き

図. 4.5: 乳児の姿勢は、それぞれの時間間隔で記録する:配置時、最終生存確認時、発見時。

就寝場所や姿勢の変更: 養育者に、乳児は通常どこで、どのような姿勢で就寝しているか、また過去48時間以内に睡眠習慣で何か変更があったか、を説明させる。睡眠パターンの変更は、疾病、損傷、または環境上の問題に強く影響している可能性もある。乳児の正常な睡眠パターンを特定し、なぜそのパターンの逸脱があったのかを解明する。考えうる睡眠パターンの妨害には、新しいベッドへの移動、新しい部屋への移動、誰かと一緒に寝る、そして背中を下にするのではなく腹部や脇を下に寝かされることなどが含まれる。これらの補足情報も、調査報告書に記録しておくべきである。

衣服と寝具：養育者に、乳児は発見時に何を着ていたか尋ねる。衣服の種類や適切性に加え、乳児がどのようにくるまれていたかも記録する。乳児の寝床、ベビーベッド、またはベッドの上にかかっていた寝具の種類も、写真をつけて確認、記録、説明することが重要である。

目撃者インタビュー

19 子どもは何を着ていた？（例：Tシャツ、紙おむつ）

20 子どもはきつい服を着てたり布でくるまれたりしていた？ ☐いいえ ☐はい⇨ 具体的に：

21 使用していた毛布のタイプと枚数（敷き、掛けの両方）は？（子どもを包んでいた毛布を除く）：

敷き寝具	なし	枚数	掛け寝具	なし	枚数
湯上り用おくるみ	☐		湯上り用おくるみ	☐	
乳幼児用毛布	☐		乳幼児用毛布	☐	
乳幼児用布団	☐		乳幼児用布団	☐	
成人用布団/羽毛布団	☐		成人用布団/羽毛布団	☐	
成人用毛布	☐		成人用毛布	☐	
シーツ	☐		シーツ	☐	
シープスキン	☐		枕	☐	
枕	☐		その他、具体的に：		
ゴムやプラスチックのシート	☐				
その他、具体的に：					

図．4.6：乳児が使用していた衣類や寝具の種類は記録を行わなければならない。

この時点で死亡調査員は、面接が終了次第、または現場調査前の人形による再現において、これらのものを精査、撮影できるよう、所在を確認しておかなければならない。

作動していた、または乳児の手の届く範囲にあった機器：養育者に、乳児の発見時、部屋の中で作動していた機器があったかを尋ね、部屋の温度を聞く—死亡調査員にとって熱すぎる室温でも目撃者には適温の場合もあることを忘れないようにする。評価基準として、養育者の解釈も記録しておく。

目撃者インタビュー

22 下記のうち死亡児の部屋で動作していた機器は？
☐なし ☐無呼吸モニタ ☐加湿器 ☐噴霧器 ☐空気清浄器 ☐その他

23 死亡児のいた部屋の室温は？ ☐高温 ☐低温 ☐適温 ☐その他

24 下記のうち死亡児の顔、鼻、口の近くにあった物品は？
☐バンパーパッド ☐乳児用枕 ☐姿勢保持補助具 ☐動物のぬいぐるみ ☐おもちゃ ☐その他

25 下記のうち死亡児の手の届く範囲にあった物品は？ ☐毛布 ☐おもちゃ ☐枕
☐おしゃぶり ☐なし ☐その他

図．4.7：乳児の環境に関する一般的質問への答えはここに記録する。

目撃者に、ベビーベッドまたはベッド内に、乳児とともに置かれていたものを尋ねる。繰り返すが、これらの場所を現場調査中に記録しておく。これは面接を、病院など実際の事件発生場所以外で行う場合は。特に重要である。

寝床の共有：誰かが乳児と一緒に同じ寝床で寝ていなかったかを確認する。もし該当する場合は、その年齢、およその身長、体重、乳児との位置関係、また酩酊していなかったか、何らかの薬物の影響を受けていなかったかを記録する。誰かと寝床を共有することは、乳児にとって深刻なリスク要因となる。

目撃者インタビュー

26 誰か死亡児と一緒に寝ていたか？　☐いいえ ☐はい⇨ その人物の名前などを下記に記せ

死亡児と一緒に寝ていた人物の名前　年齢　身長　体重　死亡児との位置関係　薬物使用、疲労等での能力低下は？

図. 4.8: 睡眠に関する質問では、死亡調査員は広く情報を収集する必要がある。

乳児の睡眠環境及び乳児を寝かせる方法について話をするときは、発見時の乳児の状態や場所（ベッド・ベビーベッド内の）について質問することが望ましい。その人物が乳児のチェックをしたか、していたとしたらそれはなぜか、を確認するよう努める。乳児が発見時に何かの間に挟まれていなかったか、そして最初に発見し、抱き上げた際、体はどのようにみえたか、触った感じはどうだったか（冷たかった、濡れていた、など）を説明させる。

目撃者インタビュー

27 ウェッジング(どこかに嵌り込むこと)をきたしていたか？ ☐いいえ ☐はい⇨具体的に:

28 発見時子どもは息をしていた？　☐していた ☐していなかった

息をしていなかった場合、子どもの息が止まるのを目撃した？　☐いいえ ☐はい

29 子どもの状態を確認しようと思ったのはなぜか？

30 死亡児を発見した時の外観は？

	不明	いいえ	はい	詳述し、部位を同定せよ
a) 顔/鼻/口周囲の変色	☐	☐	☐	⇨
b) 分泌物(泡を吹いていた)	☐	☐	☐	⇨
c) 皮膚変色（死斑）	☐	☐	☐	⇨
d) 圧痕（蒼白部位）	☐	☐	☐	⇨
e) 発疹や点状出（粘膜や結膜にも注意）	☐	☐	☐	⇨
f) 体のパターン痕（擦過傷or挫傷）	☐	☐	☐	⇨
g) その他	☐	☐	☐	⇨

31 発見時子どもはどのような状態であったか？（該当項目すべてチェック）

☐発汗あり　☐体熱感あり　☐冷たかった

☐弛緩していた　☐硬直していたf　☐不明

☐その他⇨具体的に:

図. 4.9: “挟み込み”および発見時の乳児の外見に関する質問。

蘇生努力: 乳児の蘇生を試みた者があれば、調査書および死亡調査員の現場ノートに記録しなければならない。救急サービスの職員（救急隊・消防・警察)が蘇生措置を行った場合は、死亡調査員はこれを記し、養育者の面接後、機関の担当者に確認する。養育者が乳児の蘇生を行っていた場合は、以前にも養育者が蘇生を行ったことがあるかを尋ねる良い機会になる場合もある。その質問は、彼らが以前にも乳児の死亡を目撃したことや、自分が世話をしていた子どもが死んだことがあるかを尋ねるための都合の良い“導入部”になるかもしれない。

目撃者インタビュー

32 救急隊員以外の人物が蘇生を行おうとしたか？　☐いいえ ☐はい⇨ いつ・誰が？

誰が _____　____/____/____ 年 月 日　____:____ 時間（24時間表記）

33 蘇生の一環として、何が行われたか述べてください：

34 親/養育者は、以前に突然の、予期せぬ子どもの死亡を経験しているか？　☐いいえ ☐はい⇨ 説明せよ

図. 4.10：救急隊による蘇生措置は、他の乳児の死亡について、養育者が目撃したかどうか尋ねるきっかけになる場合がある。